

第28回区民車座集会意見交換内容（中原区）

- 1 開催日時 平成29年2月1日（水） 午前10時30分から午後0時00分まで
- 2 場 所 中原区役所 5階会議室
- 3 参加者等 参加者12名、傍聴者10名 合計22名

<開会>

司会：皆様お待たせいたしました。それでは、定刻となりましたので、ただいまから第28回区民車座集会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます中原区役所まちづくり推進部総務課の両角と申します。よろしくお願いたします。

今回、中原区では、区民の車座集会のテーマを多様な主体の協働・連携による環境教育の取り組みといたしまして、区内で活動されている団体の皆様に御参加いただいております。それぞれの団体による取り組みの発表と意見交換を行い課題を共有化するとともに、今後の区の事業やまちづくりなどにも生かしていきたいと考えております。

本日の参加者でございますが、日本電気玉川事業場、富士通川崎工場、モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合、グリーンコンシューマーグループかわさき、矢上川で遊ぶ会、CCなかはら・地球にいいことプロジェクトの皆様にお越しいただいております。

席の順番にお名前を御紹介させていただきます。日本電気玉川事業場から稲垣様。富士通川崎工場から要藤様、同じく桐原様、杉山様。グリーンコンシューマーグループかわさきの鷹取様、モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合の伊藤様、グリーンコンシューマーグループかわさきの牧野様、矢上川で遊ぶ会から庄司様、千明様、CCなかはら・地球にいいことプロジェクトから竹井様、柘植様、由良様、以上の皆様に御参加いただいております。

次に、行政からの出席者を紹介させていただきます。福田紀彦川崎市長でございます。

市長：どうぞよろしくお願いたします。

司会：鈴木賢二中原区長でございます。

区長：よろしくお願いたします。

司会：それでは、初めに福田市長から一言御挨拶申し上げます。市長お願します。

<市長挨拶>

市長：改めまして皆さんおはようございます。今日は午前中から車座集会に御参加いただきまして、誠にありがとうございました。

私、今こちらに来る前に、NECさんの川崎（玉川）事業場にお邪魔しまして、地元の小学生の環境教育を会社の中でやっただいていいるということで、その現場を見させていただきました。昨年の3月に川崎市の環境教育の基本方針というものを10年ぶりに改定いたしまして、多様な主体がうまくつながっていて、それをどんどん市民の中に広げていこうというふうなことでありますけれども、今日はそれぞれに環境の課題について、商店街の皆さん、それから事業者の皆さん、市民の団体の皆さんという形で、いろんな多様な主体の人たちがもっと協働・連携していくにはどういう形がもっと望ましいのかということ、今

やっている取り組みを御紹介いただいたり、それをさらに広げていくというためにはどんなことができるのかなということや少し意見交換できる機会になればいいかなというふうに思っております。短い時間ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

<意見交換>

司会：ありがとうございました。それでは、早速各団体の発表と意見交換に入らせていただきます。

進め方でございますが、団体ごとに8分程度で発表していただいた後に、市長から感想や質問などをいただきます。発表の際には、残り時間1分のときと残り時間30秒のときにボードをお示しいたしますので、御協力をお願いいたします。

皆様からの発表が全て終了しましたら、市長から課題提起を行った上で、市長を進行役といたしまして参加者の皆様と意見交換を行ってまいりたいと思います。

それでは、初めにNECの稲垣様、お願いいたします。

稲垣さん:皆さんおはようございます。NECの環境推進部で環境教育を担当しております稲垣と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今朝は朝から福田市長と鈴木区長には御来場いただきましてありがとうございました。今日ちょっとこの中でも紹介させていただきますが、NECは、川崎市にある事業場としていろいろ環境教育の御協力もさせていただいておりますので、弊社が考える環境教育全般を含めて少し御紹介をさせていただこうと思っております。

最初に、会社紹介ということで、ちょっと振り仮名とか振ってありますけれども、子供向け資料から抜粋をしています。実際は川崎市の中で教育をやるときにこういう形で紹介をさせていただいておりますが、以前は、NECというとほとんどの方が知っていたんですけども、最近の子供はなかなかNECといってもわかってくれないので、皆さんの中原区の見えるところではNECという文字が出てこなかったんですけども、実は人工衛星から海底ケーブルまでいろんなところで皆さんの暮らしを支えているということで最近紹介をさせていただいております。

こちらの写真、弊社の総務部のほうからちょっと古いんじゃないかということで…実際、今はこの場所から写真を撮るといっばい高層ビルが建っているんですけども、これが一番目立つ感じになります。玉川事業場のほうでやっています、一応大体子供たちもこのビルは見たことがあって、田町からも見えますので、あるということで会社は知ってもらえているかなというふうに思っています。

弊社の中で、私、環境教育を担当しているわけなんですけれども、教育の考え方として二つのことを重視しております。一つは、環境教育、これは座学的にいろいろ教えるということ、情報を提供するということがありますが、それだけでは不十分だろうということで、もう一つは、イベントと書いてありますけれども、やはり実感をしてもらう、そういう取り組みが必要だろうということで、できるだけこういう2点を考えた上で配慮をする。そのことが一人一人の環境問題の把握になって行動につながるだろうというふうに考えております。

その中で、環境教育として、弊社従業員もごさいますし、また従業員の家族まで入れると30万、40万になりますので、かなりインパクトがあるだろうということでそこまで考えておりますし、当然、地域で活動する事業者としては、地域社会への貢献ということでやらせていただいております。

ちょっと太字に書いてある、この後紹介させていただきますが、全従業員に関しましては、年一回全従業員の環境教育というものを挙げております。これは受講率が98%ぐらいですね。大体10万人弱の社員全員が受けるようになっております。もう一つキーマン研修と書いてありますが、その中でもやっぱりキーとなって環境活動を推進する人、その人たちにはやはりもっと全体に輪を広げるためのノウハウを広げようとい

うことでキーマン研修を、これはNPOの方に御協力をいただいてやっております。

イベントのほうに関しましては、弊社は6月を環境月間としていろいろなイベントをやっている中で、一つはやりやすいというか、わかりやすいのは、環境に関係する映画、これは参加もしやすいということがあるので、このへんは毎年やらせていただいておりますし、玉川事業場も、この後紹介しますがけれども、いろいろ事業場特有のイベントも企画しております。あとは、社員の家族に向けては、あまり教育というよりかは実際に体験してもらおう場ということで、弊社、茨城県のほうに田んぼ、休耕田を借りて復田をして、その中でお米をつくって、しかも酒米をつくってそれをお酒にするというような取り組みを行っております。お酒にすると結構参加する従業員も増えますので、そういうことでやらせていただいておりますし、あと、千葉のほうの事業場に行きますと、かなり自然豊かな中にありますので、実際にどういう昆虫がいる、植物が生えているのかというところを体験するようなイベントもやらせていただいております。

地域社会においては、今日まさに今朝御見学いただいた小学校の受け入れ教育ですとか、やはり夏休みとか冬休み、この辺、環境のイベントをやられている区の方には協力をさせていただいております。

幾つか御紹介をさせていただきますが、有機野菜販売ということで、これは今日も小学生、食堂の残渣ですね。それを堆肥化してコンポスト化しているわけなんですけれども、それを地域の農家の方に御活用いただいて、そこでできた野菜をまた食堂で使うというようなそういうサイクルをやっておりますが、従業員の方にもその活動自身を知ってもらうということと、ここで得た恵みを共有するというところで、販売会等を企画しております。やるたびに全部すぐ完売するような好評で行っております。

もう一つが、今日来ていただいた小学校の受け入れ教育、環境の話は今のコンポストの話もそうですけれども、体験するものとして電力測定の体験を行っております。これも実際に電気の使用量がどれだけあるのかというのは、子供たちに聞いても、やはり実際に見て使い方の変化を見てみないと実感できないだろうということで、それを実感できるような体験を行っております。

もう一つの地域の貢献ということで、夏休みのイベントですね。こちら今の電力測定とあわせて、ソーラーハウスというこの写真でありますけれども、そのソーラーハウスづくりを行っております。こういう子供向けが中心なんですけれども、イベントとしてなぜこういうことを考えたのかというところで、これも子供向けの資料、これはちょっとお配りした資料には入っていませんけれども、どういう考えでやっているのかというところで、ソーラーハウスをつくるということは、これはほとんど手づくりとか百均とかで集めている材料は用意しているんですけれども、庭に刺しておくとか夜になると勝手に光るソーラーライトがあります。これを家の形をした箱に刺して、中がのぞけるようにして、小学生の人がつくと家に持ち帰って、日の当たるところに置いておくと夜になると光る。ここで何をしてほしいかということ、何で夜光るかということ、電池があるから、蓄電池があって、昼間の電気を貯めておくからということなんですけれども、そういう電気は貯めておいてそれを使えることによって有効に活用できるということで、実は弊社はこういう蓄電池の事業もやっておりますので、その場で家に例えばそういう電池があれば非常に便利だし、省エネにもなるし、災害時も便利ですということ、どちらかということ小学生の人というか、親御さんのほうにいろいろ紹介をさせていただいております。ただ、電池に貯めておいて使うだけでは無駄な使い方をしてしまうとすぐなくなってしまうので、そこで電気の見える化が重要になってくると思っています。実際いろいろな家電類を測ってもらって、使い方によってどれだけ数値が変わってくるのかというのを体験してもらおうということでやっています。

我々は電気を使う会社、日本電気というぐらいですので、そういう会社ですので、電気の重要性を伝えるということで、どちらかということと事業とつながる中でうまく子供たちに紹介をできればということでやらせていただいております。

弊社としては以上になります。ありがとうございました。

司会：ありがとうございます。では市長、感想のほうをお願いいたします。

市長： どうもありがとうございました。今日それこそ最後御紹介がありましたけれども、実際に測ってみるといふのを子供たちがやっているんですね。それはみんなびっくりしていました。僕自身もやらせてもらってびっくりしたんですけども、ドライヤーつけて冷風だったら1.2ぐらいだったのが、温風にすると10.0になり、もうほとんど10倍ぐらい電力使用量ってこんなに違うんだというふうなのを体感してみても初めてわかったと。私自身も初めて知ったというぐらいでして、こういった教育が子供たちに体感してもらうことは物すごく大事ななど。そういうことを地元の企業がやっていたらいいんです。大変ありがたいなというふうに思いました。本当にありがとうございました。

今の御発表の中で、やっぱり社員の方の人数が物すごく多いので、環境教育を自社の方に社員の方にするって自体物すごくインパクトがあるというふうに思うんですが、資料の中にありましたキーマン研修ですね。これって川崎市のこの環境教育の指針の中でも、最後の「つながる・伝える・活かす」の「活かす」の部分、最後の最終段階で行くと、地域の環境リーダーというものをどんどん育成してさらに広げていこうというふうな、同じような考え方だというふうに思うんですが、このキーマン研修は、改めてですけども、どういった趣旨とどんな教育をやってさらに外に広げていくというふうなことをされているのかというのをまた御教授いただけますか。

稲垣さん：ありがとうございます。キーマン研修なんですけれども、大体企業さん、ISOを取られている会社さんは、やっぱりこういう環境を展開する上で職場それぞれに環境を推進する担当者がいますが、その人たちはやっぱり人事異動とかで代わってきますので、常にそういう知識、ノウハウを持った人にいていただくということで、新任の方を中心に今やらせていただいております。

何がポイントかといいますと、やはり企業の中で環境をみんな大賛成でやっているかというところとそういうわけでもなくて、抵抗勢力がありますので、それにどう応えるのかなというところをむしろ重点を置いていて、ここにも書いてあるんですけども、ディベートをやっています。ディベートというのは、そういう担当者の方が、要はそれを否定する立場と肯定する立場、両方自分の立場を変えて、よく議論をする中で、やはり相手の立場に立ってみると、こういうことを思うからこういう言い方をしようということを実際に自分の頭で考えて言うってもらうということを中心に行っているんで、結構ディベートは非常に参加した方も、今まで自分はこれはいいと思ってやったけれども、だめという人の立場がよくわかって、どうしたらいいかという気づきがあったというようなこともいただいております。

市長：ありがとうございます。それはすごくおもしろくて、確かにグループ一丸となってやるんだけど、その中でもやはり抵抗勢力があると。ちょっとやり方がいつもとイレギュラーかもしれないけれども、富士通さんも、同じ大きな事業体として、抵抗勢力みたいなものを感じることはありますか。あるいはそれをどういうふうに克服していこうかみたいな、それがあつたら。

杉山さん：抵抗勢力というか…理解いただけないところはやっぱりあるのかなと思います。やっぱり人間が暮らしていく場で、例えば電力にしても、やっぱり快適な生活を逃してまで無理やり電力を下げるというのがいいのかということも確かにあると思いますけれども、そういった意味で抵抗勢力みたいなことで御意見をいただくことはあるのはあります。

市長：そうですね。何か先ほど環境教育の現場を見させていただいたときに、4人世帯のところだと、大体電力1万2,000円ぐらいずつ毎月かかっているはずですよというふうな話をされていて、子供たちに

一回家に帰って調べてもらうというふうな問題提起をされていたんですけど、電気消費を抑えて、これは子供たちはあまり感覚ないのかもしれませんが、大人とすれば、ああ電力量が下がった、家計にもちょっとうれしいというふうな、そういう何かメリットを見える化していくというふうな個々に意識をつけていくということは大事ですよ。

何か今のでNECさんの取り組みについて、御質問だとか御意見だとかございますか。竹井さん何かございますか。いきなりで申し訳ありません。

竹井さん：NECさんには、CCなかはらセンター（CCかわさき交流コーナー）のセンター長にらせていただいていますので、日頃から御協力をいただきまして本当にありがとうございます。今日紹介していただいたような講座もやっていただいて、本当に子供たちが喜ぶし、一緒に大体親子で来て、親は後ろでじっと見ているので、逆に子供だけじゃなくて親への教育にもなっているみたいな場になっていますが、確かに電力の見える化というのが大切なことで、センターでもうちエコ診断というのもございまして、家庭の電力の話とか、車のガソリンとか、それぞれのエネルギーの使用量から、あと家電の使い方の、例えばテレビいっぱい観ているとか、それであなたはこれだけ余計なことをやっていますよとか、全然やっていませんよみたいなことを診断するんですね。それでこういうことをしたらもうちょっと毎月の電気代・ガス代が減りますよとか、CO₂も減りますよみたいなシステムがございまして、やっていますので、そういうところも一緒に見える化に寄与するかなと思っております。市長もぜひ今度……。

市長：診断しないといけないですね。ぜひやってみたいと思います。ありがとうございます。まだ時間大丈夫ですかね。一旦じゃあNECさんありがとうございます。

司会：ありがとうございます。続きまして、富士通の杉山様お願いいたします。

杉山さん：おはようございます。富士通川崎工場環境管理部の杉山と申します。今日はよろしく願いいたします。

富士通からは、主に川崎工場内で行っております環境の教育、小学生の方ですね。大人の方にも実感していただくというのがあります。そういったものの御紹介と、あとは出前授業を全国的にやらせていただいていますので、それらの御紹介をさせていただきたいと思います。よろしく願いします。

富士通川崎工場はもう皆さん御存知の方が多いと思いますけれども、中原駅の目の前にどんとある工場があります。あそこに約1万人強勤務をさせていただいているという場所になります。川崎工場内には従業員向け、近隣の小学生の方とかと一緒にやらせていただいている環境活動、いろいろやらせていただいております。

その中で、環境教育等に係る体験機会の場というのを法律に基づいて川崎市のほうから認定をいただいていますので、そちらのことを申します。環境教育等に係る体験の機会の場の認定制度というものが全国的に国のほうでやられていまして、これ環境教育等に係る環境保全の取り組みの促進にかかわる法律というものがございます。こちらで川崎市のほうから認定をいただいておりますというものです。弊社のほうは、川崎工場は、パソコン分解を通じて学ぶ私たちの3Rという項目で認定をいただいております。これ対象はあくまでも小中学生ということで記載させていただいておりますけれども、大人の方が出ていただいても全然構わないものになります。

内容ですけれども、基本的に実際に弊社のデスクトップのパソコンをドライバー等を使って分解をしていただいている部品がどのようにリサイクルされているとか、枯渇資源を守るため資源を重要に使いたいというような教育をその場で体験をしていただくというものであります。

まず導入として、地球環境問題としての資源の枯渇等について3Rについて学んでいただくことを座学ということでやらせていただいております。その後実際に分解をしていただきます。部品がどのようにリサイクルされていくかと。この絵にありますけれども、基盤はどれになっていくのでしょうか。銅があればそれは10円玉になります。そういったものを学んでいただくということであります。最終的にまとめてこちらシートがございますけれども、こちらでリデュース、リユース、リサイクル、これを自分たちの家とか学校の中でどういったことができるんでしょうかというのをまとめていただくというような取り組みになっております。

この体験の機会は認定いただいているもので、最後に弊社で本館と言われる大きなビルの下にテクノロジーホールというものを併設しております。こちらの見学をしていただきまして、富士通のリデュース、環境について等をこちらのほうで見学いただくというようなことをしております。

続いてですけれども、環境出前授業といいまして、これは富士通グループで全社的に全国で展開をさせていただいている取り組みでございます。環境出前授業の目的といたしましては、先ほどのパソコン分解も同じですけれども、地球環境問題を理解していただくと。そういったことを目的としてやらせていただいております。特徴といたしましては、LCA基軸、ライフサイクルアセスメント基軸の環境教育、弊社の製品になりますけれども、ICTを活用した教育を中心としてやらせていただいております。出前授業につきましては、本年度、キャリア教育アワード表彰において大企業部で優秀賞をいただいたと。そういった受賞もしております。

内容ですけど、三つコンテンツを持っておりまして、将来のシゴトとエコということで、こちらにつきましては地球温暖化を防ぐために、将来自分が仕事に就いたらどういったものができるでしょうかということをやっていただく。これはタブレットとかあります。例えばタブレットをつくるときに研究開発から設計、製造、営業、これでああなたがどう環境に関与できるでしょうかということを通して学んでいただくというような教育をしております。

もう一個、これは今日お越しになられた方で体験していただいた方が既にいらっしゃるかなと思いますけれども、タブレットを使って地球1個分で暮らすためにエコロジカル・フォトプリントから考えるという教育もやっていただいております。こちらについては、WWFさんと一緒につくったコンテンツなんですけれども、今、日本人が暮らしていくためには本当は地球が何個あるのでしょうか、そういったものをタブレットを使って受講していただくと。実際にそれを生活でどのようなことをやっていけばいいでしょうかというものを学んでいただくというような形になっています。

最後に、地球環境カードゲーム「My Earth」ということでして、こちらはカードゲーム、お子さんなんか結構されている方があって、小学生の子供たちでカードゲームがはやっているところですが、こういったちょっと遊び心を入れながら地球温暖化や生態系の仕組みについて学んでいただくというようなことをしております。

富士通からは以上になります。

司会：ありがとうございました。市長から感想等あればよろしく申し上げます。

市長：ありがとうございました。さっきNECさんのところで随分ディスカッションしちゃったんですけど、すみませんでした。僕が趣旨を間違えて、発表後1分ぐらいしか時間がなかったのかもしれないので、進めさせていただきたいと思います。

本当にいろんなプログラムをつくっていただいて、さすが大企業の部で優秀賞を受賞されるだけの取り組みをしていただいて本当にありがたいなと思います。タブレットだとかカードゲームだとか楽しみながら子供たちに、大人も含めてだと思っておりますけど、こういったことも開発されているということに何か改めてすご

いなというふうに思いましたけれども、こういったことを地域貢献していく中で、変な言い方ですけども、何か地域貢献しているんだけど、富士通さんとして社員として何か考えさせられることとか、何か地域貢献しているんだけど、自分たちも何か学んだみたいな、そういうふうな感想って何かございますか。

要藤さん：富士通はもともと中原には、畑の田んぼの真ん中に工場を建てていたつもりだったんですけども、今ではいつの間にか周りをすっかり住宅地に囲まれて、そうした近隣の方と共存・協働していく以外に事業を続けていくすべがないと。今そんな環境になっていて、こういう形での環境活動というようなことで、地域の皆様向けにということ当初すごい意識して当然やっているわけなんですけれども、実は川崎工場の中に勤めている従業員の4割強、半分近くが川崎市内から通ってきているということでもありますので、富士通か地域かという0・1ではなくて、その中には当然富士通の従業員またその家族というのたくさんいると。そういう事業環境というか、周囲の周りの中の活動なんだなというのがだんだんとわかってきたかなというそういう感覚はあります。

市長：ありがとうございます。確かにそうですね。富士通さんすごく多いですね。4割が市民だと考えると、おっしゃるように地域か企業という、そういう分け方じゃなくて、まさに地域の中にと、全くすみ分けをする必要がないということですね。かぶっているの、地域かつイコール企業活動をやりながら一緒にまざっているということですね。本当にありがとうございます。また後ほど、ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。続きまして、モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合、伊藤様お願いいたします。

伊藤さん：おはようございます。ブレーメン通り商店街振興組合の伊藤と申します。

今回この1店1エコ運動、商店街で取り組む環境問題ということでの1店1エコ運動を開始するに当たっての一つの背景というのが我々にとってございます。それは何かというと、20数年前、ブレーメン通り商店街という名前がついた後、ドイツのブレーメン市にあるロイドパサージュという商店街と友好関係を結んだと。そのことによって商店街としても何か環境への取り組みができるのではないかと。環境先進国のドイツに学んで何かできるのではないかとということで、1店1エコ運動を始める前に、我々当時のブレーメンで販売されていた布製のエコバッグを耳にいたしまして、それをマイバッグ持参運動という形でもって始めたのが一つのきっかけなんです。

正直申し上げて、川崎市はいろいろ環境問題を取り上げている商店街はどこにもない。なぜないかというと、事業者たちの環境意識が低いのかなというふうに思います。そういうことで我々もドイツとの友好関係が一つの大きなきっかけでありますけれども、我々商店街として、このエコ活動がさらに進んだのは、平成14年、川崎市の頑張りモデル商店街事業がございました。商店街がやる一つの事業の中で市内の商店街どこでもできるような取り組みを考えようよといったときに、1店1エコ運動、今日御出席いただいていますグリーンコンシューマーの皆さんの御提案で商店街が一つの環境の取り組みをしておると、その取り組みについて1店1エコ運動という名前を皆さんに考えていただきまして、商店街が何か一つ各お店が環境にいいことをポスターなどで展示してそれを実施していこうじゃないかというのがこの1店1エコ運動なんです。

この1店1エコ運動、ここにポスターがございまして、ここに各それぞれのお店が取り組んだ内容をここに提示しまして、お店の店頭あるいはカウンター周りに掲示していただいて、そのお店はこういった取り組みをやっていますよということで、後で、非常に細かいものですので、それに各お店の取り組みがあらわれているかと思うんですが、ここですね、読めないかと思うんですけども、例えばそれぞれの各お店がさまざま

まな取り組みをやっています。このことを先ほどのグリーンの掲示板に書いて、それで店頭貼っていただいているんですね。

ここに過去の歴史がありますが、この環境への取り組みのことは、行政や何か、国からもそうですけれども、川崎市あるいは神奈川県、特に川崎市長、横浜市長、それから神奈川県知事、三者の受賞を受けた経緯もありますし、環境大臣からの表彰も受けております。この1店1エコ運動というので、決して商店街だけでできる問題ではないんです。このグリーンコンシューマーという、聞きなれていないかもしれないですけど、環境に優しい品物を買いましょうという一つのグループ、そういった環境意識の高いの方たちに商店街に協力していただいて、平成15年ですか、この運動がスタートしております。もう今年で14年目になります。これは継続することに物すごく意味があるんですね。やっぱり我々のところは行政からの支援がなくなるとその運動が終わったのではこれは意味がないんです。ということで、我々の商店街もスタートしてからずっと本日まで継続していますけれども、その継続できる理由は何かという、商店街の力なんですね。きちっとした組織があって、事務局があって初めてそういったことが継続できるんですね。

エコ調査隊というのがございます。これは1店1エコ運動というのは、やっているとただ単なるマンネリになってしまう。貼ってあるポスターもただ単なる景色になってしまうということで、これを何とか継続していくにはどうしたらいいんだろうということで、グリーンコンシューマーの皆さんとの協働で、1年に一回夏休みになったら子供たちにエコ調査隊を募集して、それでそれぞれの参加しているお店のチェックに行こうということで、夏休みに入るとすぐ、全員地域の小学校の中から子供たちを募集、そしてそれぞれのグループに分けて参加しているお店を訪問してチェックシートに基づいてちゃんと1店1エコ運動のポスターを掲示してありますかという尋ね方、協力していただいていますかと、子供たちの目からそういった点をチェックしてもらおう。そのことによって、毎年その参加しているお店は意識を高めるという緊張感を持つということで、これはずっと継続されると、これは非常に子供たちの環境教育にも物すごくつながっている。子供たちの環境意識というのは物すごく高いのですね、やっぱりあれだけのことを、NECさんにしても、富士通さんにして、要するに地域の子供たちに対する環境教育ということで大変貢献されている。取り組みをやっている商店街も、グリーンコンシューマーさんの協力をもって子供たちの環境教育に寄与しているのかなというふうに思っています。

この1店1エコ運動、エコ調査隊の内容については、皆さんにお配りした資料でもってこういったことなんだなということがおわかりになると思います。我々としても、子供の教育がずっと継続していくという気持ちでおりますし、またこの2月の16日に低炭素杯、環境への取り組みについてグリーンコンシューマーの皆さんも来て報告して大賞にさせていただこうということで皆さん頑張ってやっておりますので、注目してください。以上です。

司会：ありがとうございました。では市長お願いいたします。

市長：伊藤理事長のところのプレーメン通り商店街は、とにかく日本一の商店街だというほどのあらゆる取り組みをやっていて、国の省庁も何かあると伊藤理事長のところをお願いにやってくるというか、それぐらい何ともちょっと突き抜けているぐらいすばらしい取り組みをやっているところですけども、環境の取り組みについても、先進的に取り組んでいただいているかと思えますね。心から敬意と、それから川崎にこういう商店街があるというのをとても誇りに感じさせていただいております。

先ほどのエコ調査隊はすごくいいですね、子供たちの。これ大人がやると本当に角が立ってけんかになっちゃいますけど、これ子供たちが来てチェックしていくと緊張感もあるし、何となくみんなから注目されているんだなというやわらかい形が入っていけるという、このアイデアはすばらしいですよ、これどうしてこういうアイデアを思いついたんですか。

伊藤さん：先ほど申し上げたように、グリーンコンシューマーの皆さんと、これを継続していく上において、子供たちにチェックしてもらおうということが継続の一つ要因になるということですね。特にこれはグリーンコンシューマーさんの協力の、商店街の中でやるというわけにはいかないのです。商店街の方はお膳立てをやるだけで、あとはグリーンコンシューマーの皆さんで、子供たちに対して全ての連絡から企画から、そういった調査が終わった後の発表とかそういったものを全部やっていただいている、お店側も子供たちが来ることによって物すごく親切に対応してくれる。我々がやってきたんじゃだめ。ところが子供たちが来ると、お店側のほうも物すごく親切に対応してくれるのです。子供に言われたことに対してはちゃんと守ってくれる。大人が言うとかだめなんです。本当にですからそういう点でもやはり子供の環境教育プラス商店街の参加しているお店の人たちの意識が高まるということで、非常にいい運動なので、本当は正直言ってお店の経費が削減されるのです。そのことが深く市内の商店街に波及できると一番いいなと思っているんですけど、先ほど申し上げたように、事務局もない、それから役員も組織力もない。そんなところに幾ら言ってもやっぱりこれが波及できないというのは残念だなと思っております。

市長：この話もうちょっと深掘りしたいんで、後でグリーンコンシューマーの皆さん、鷹取さんも牧野さんも来ていただいているので、後ほどもう一回コメントをいただきたいと思っております。ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。続きまして、矢上川で遊ぶ会、庄司様お願いいたします。

庄司さん：皆さんおはようございます。矢上川で遊ぶ会の庄司です。よろしく申し上げます。

私は、今回、矢上川はどんな川なのかということをおもちゃと皆さんに知っていただきたいと思っております。

矢上川は鶴見川流域の一部なんです。この上あたりにあるんですが、こうやって見てみますと、宮前区の犬蔵から幸区の南加瀬のほうに向かって流れてくる川なんです。流域面積は多摩川流域に続いて2番目に川崎市内では大きな流域になっているんですね。中原区役所は何と多摩川流域になるんですね。矢上川の流域は鶴見川流域の都市河川、典型的と言われますが、その中でも特に矢上川は市街化率が97%という典型的な都市河川なんです。流域の移り変わりを見ていきますと、60年前ぐらいですかね、市街化率が10%だったものが、もう現在では85%、そして本当に最近では矢上川流域は97%がまちの中を流れる川なんです。

これが水の水質の変化なんですけれど、60年前ぐらいはかなり汚れていた。というのは本当に最近になって、平成15年ぐらいから本当にきれいな川になっておりまして、ちょうど平成11年頃ですかね。2000年頃からアユが遡上して来ているというのが確認されています。またアユの産卵も確認されているということで、本当にきれいな川が戻ってきてよかったなというふうに私たちは感じています。

活動自体は、1996年からもう21年ぐらいになるんですが、最初の頃はちょっとまだ汚れがあった。それがだんだんきれいになっていくというのを感じつつ、ぜひ矢上川で遊ぶよということで矢上川で遊ぶ会という名称になっています。

矢上川の三つのポイントを御紹介します。源流の犬蔵まで約13キロという非常に短い川です。また、汽水域で、海水と淡水が交わるところが下流域のほうにはたくさんありまして、そこに生き物のにぎわいが感じられるところです。いろいろな川とつながっていますので、いろいろな川の団体と調整しながらやっていくということで、多摩川、二ヶ領用水ともつながっている川なんです。

今の話はちょっと飛ばしますが、これ明治13年頃の矢上川なんです。学校で子供たちにこれを見せると、みんなえっというふうに驚くんですけど、矢上川はこれです。こんなくねくね曲がっていたんですね。それが約100年前に真っすぐに戻りました。周りにいろいろな池が残っていたということです。その後、護

岸工事がされたという歴史をもっています。皆さんよく御存知のアミガサ事件などでは、この近くの住吉橋をアミガサ事件の人たちがアミガサをかぶっていたということで、非常にたくさん曲がっていたのでたびたび氾濫も起きています。

今日の本題では環境学習ということですが、私たちの会が大事にしたいことは川辺の保全というところですが、川辺に寄り添う、見守るというような形でできることをやっています。そしてその環境から学んでいく、そして生き物との共生はやっぱりしっかりと心の中に落とし込んでいくようなことを伝えていきたいというふうに思っています。

今回、中原区さんが非常に環境学習ということで、矢上川で遊ぶ会を一つに選んでくださって、学校とのコネクションをきちんと伝えてくださって、木月小学校との環境学習がここ4年ほど続いています。とっても大事なことで、これがあつたからこそ今かなりほかの学校へとまた広がりつつあります。5月のちょうど干潮の頃に、矢上川の川底にたくさんウナギが暮らしているというのを、みんなで石をどかしながら発見するという大感動のイベントです。大体毎年40人から50人ぐらいが参加して川の中でウナギを発見して、感動して、ああウナギの生態系ですね。そういったことからやっぱり生き物との共生などを学びます。

矢上川植物観察会、野草を観察しているいろいろ昆虫と野草との関係のほかには、天ぷらにして食べたり、何かやっぱり体験をもっとより深く伝えていって、印象として感動を残していきたいなというふうに思っています。

それから、秋と春には川辺のクリーンアップをしているんですが、秋にはクリーンアップをした後にみんなでハゼ釣り大会ということで、いろいろコミュニケーションを図りながら川辺の、水辺のクリーンアップをしつつ、最後にはみんなで自然体験をして心に深く落とし込んでいきたいと思っています。

これは夏にやっている一番大きな行事なんですが、生き物調査というのをやっています。これ場所的には矢上川と渋川の合流地点なんですけれど、日吉駅から歩いて10分ちょっとのところにあります。川の中に親子で入って、みんなで魚をとって、カニをとって、アユがとれることもあります。いろんな魚をとったり、みんなが一人1匹はとろうねということでやっているんですが、こんな身近なまちのそばにある川で自然体験ができる。上から見てるとわからないけど、川の中に入ったらきれいかわという、何か大人の方たちがちょうどこの小さなお子様の保護者の方たちもお見えになるのですが、自然が汚れてきて、自然体験が少なかった世代なので、非常に親御さんも感動するということなんです。

鷹野大橋という、鶴見川との合流地点では毎月一回定例活動でクリーンアップをしたり、いろんな生き物と触れ合う。本当に幼児を連れてお子さん連れが来て、こんなふうのんびりと自然とつき合うことが楽しめるなんてすごくいいからまた来たいというふうな声をいただいています。

この環境学習支援は、中原区の木月小学校の5年生、4年目ですが、幸区の小倉小学校、南加瀬小とか、日吉小学校ですとか、いろんなところと組みながら環境学習をやっています。木月小学校はとても熱心にやってくれるので、川の上から見た、また川の中の生き物調査ということで、魚釣りを体験しているんですね。ここで子供たちが議論をするんですね。どんな議論かというと、矢上川はきれいかわ汚いかわみたいな、自分でランクづけをしていったり、討論をして発信をしたりですとか、あと矢上川の魚は食べられるかとか、ちょっとこれはいつもどきどきしながら聞くんですが、そんな発表をしてくれています。やっぱり自分の体験を自分の中に落とし込んで、次にそれを自分の声として発信していくということもできている。すごいなというふうに思います。やっぱり継続していくということが力になるんだなというふうに思います。

それ以外にも、矢上川の、幸区と港北区というところで活動しているんですけど、その幸区のほうのプレイパークの会ですとか、地域の子育て団体とかいろいろなところと連携して日吉の実行委員会というのをやっています。加瀬山でエコツアー、夢見ヶ崎動物園ですね、あと、遊びの後でかき氷大会をしてみたりとか、あと鶴見川流域ネットワーク団体と連携を深めながら活動をしています。

上流のほうに行きますと、これは矢上川流域ネットワークなんですが、高津区では五反田橋でクリーンア

ップや魚調査、宮前区は上野川橋で野川小とクリーンアップや魚調査をした写真です。あと源流は宮前美しの森公園なのですが、犬蔵小と、美しが丘東小と環境学習を展開しています。

この辺はちょっと時間になってしまったので言えないんですが、温暖化の影響が河川には大変大きく今影響しています。できることは何か、調査とはどんなことがあるのだろうかということも広報しながら進めています。ありがとうございます。ぜひ御参加ください。

司会：ありがとうございました。それでは、市長からコメントをお願いします。

市長：ありがとうございました。本当にさまざまな取り組みをされていて、いろんなイベントも含めて、私はちょうど矢上川の源流のところに住んでいるんですけども、そういう意味で物すごい個人的にも感慨深いものがあるんですけども、やっぱり生物多様性というふうなことって、文字で読んだりとかやると非常に難しく考えがちなんですけど、こうやって子供たちが、今おっしゃったように、川辺に出る。川の中に入ってみると。上から見ると中に入ってみる。さわってみる。ウナギでも捕まえてみるというそういうことこそが本当に何か生きた学びというか、生物多様性を本当に体で理解するというか、こうなんじゃないかなということ何か説明でとても感じました。本当にありがとうございます。

特に最後のほうに出てきた鶴見川の流域のネットワークだとか、ほかの団体とネットワーク、一緒にやっというふうなことにすごく何となくうまくやられているなという感じがするんですけども、それというのはどういふふうにつながってきたんでしょうか。あえて自分からつながりにいこうというふうにやってきたんでしょうか。

庄司さん：鶴見川流域ネットワークというのは、ほかの流域は市民団体ができていたんですのに、矢上川流域はできていなかったのです。本当に20年前に立ち上げたときに、あちらからよくできたね、頑張ったね、応援するよというような感じで、向こうからまず来てくれて、私たちもうれしかったですね。いろんな力をいただきました。また、地元の日吉の輪ということで、今度は幸区の日吉地区の地域なんですけど、そここのところいろいろ活動している団体が、子供たちにこの地域の宝物、いろいろあって歴史的なもの、自然、そして人とのつながりがすごく大事であって、そここのところをつなげていきたいと思う人たちがつながってこうということとして、幸市民館のほうでも力をかしていただきましてネットワークになっていったんです。今、とても毎月のようにいろんなイベントをして、皆さん忙しいので市民活動の間を縫って調整しながらやっています。

市長：わかりました。どうもありがとうございます。

司会：ありがとうございました。今度の発表はCCなかはら・地球にいいことプロジェクトの柘植様お願いいたします。

柘植さん：皆さん、こんにちは。CCなかはらの柘植です。

本日のお話はCCなかはらはどういう団体なのか、どういう内容の活動をしているのか、それから、CCなかはらの代名詞にもなります、我々目玉事業と言っているんですけど、防災グッズの出前講座について少しお話をさせていただきます。

これらの実績はどうだったのか。それからあと防災グッズ講座をぜひ寺子屋講座に持って行って活用してもらいたい。それから最後に私ども地域の次世代を担う若い子供たちにどういふ環境教育を進めていったらいいか、展開したい内容を説明させていただきます。

CCなかはらは、CCはカーボンチャレンジで、文字通り二酸化炭素の削減を意味しています。CCなかはらと言いますと、中原区の地球温暖化防止活動を推進する団体です。発足は7年前の2010年2月です。最初お話がありましたように、地球にいいことプロジェクト、いいこととひっかけて、ECOとして活動しています。2年後に名称変更がありました。このときは川崎7区で全部で地球温暖化防止活動を推進する団体を発足しまして、CCさいわいと、CCたま、それに合わせてうちのも冠にCCなかはらと変更しました。

活動目的は冒頭申し上げましたように、中原区は高層ビル等々、ヒートアイランド対策とか地球温暖化防止の普及啓発、環境学習とあるわけですが、やはり防災という範疇を加えなければということで活動の範囲をここに広げました。メンバーは、中原区を中心に現在15名が登録しております、このメンバーは地球環境リーダー育成講座修了生とか、川崎市地球温暖化防止活動推進員をやっているとか、それからまちづくりに関してのさまざまな人が集まっています。常時8人前後が活動しておりまして、事業の時には5名前後の方がいらっしやっていて、毎月定例会が開催されているんですが、中原区の環境担当の方が忙しい中を割いて私どもの会合に毎月参加していただいております。年齢層は40から70、若い人はいないんですけど、男女半々という構成です。

このCCなかはらの15人の7人とか8人は、CCなかはらの活動だけやっているわけじゃなくて、いろんな活動に参加しています。今、地球温暖化活動推進員のセンターの中にさまざまな団体がありますが、省エネとかグリーンコンシューマーグループとか、3Rとかいろいろあるんですが、そこにも参加しております、私どもCCなかはらにはいろんな武者修行でいると、いろんなスキルを学んだり、ノウハウを学んだり、そして何よりも一番大きいのは、子供たちと小学生の方と学習する場をいろいろ持っている、また活動する場を得ているということになります。

あと、2010年に発足してから一番大きかったのは、6月に環境デー2010 in なかはら、これは自主事業でございましたけれども、中原区役所の会場を借りて環境に関する団体、それから市民の方が集まってこういった催しをやりました。

それから、区役所関連事業支援としては、いろいろ代表5校のいろんな環境ミーティングにコメンテーターとして参加したりですとか、それからエコカフェ等々中原区が主催する行事が開催されたときに積極的に出展したり、それからなかはらっぱ祭り等々にも毎年出ております。

それから、いろんな活動の中に、中原区内の、今日NECさんとか富士通さんとか大企業がおられますけれども、中小企業もいろいろたくさんあるんですね、そこでも頑張っておられる環境に関するきらりと光る取り組みの活動を紹介しようとか、そういった情報発信も努めております。これはチーム等々力と云って板金の廃材を利用したロボットをつくったりとかアクセサリーをつくったりして、子供たちにいろいろな工作教室を提供しているところを我々積極的に紹介しよう。

それから、最近4年間の主な活動についてですが、基本的にはお手元にあります防災エコグッズの市民提案事業として提案して、この冊子をつくり、その後はやっぱりこれをつくっただけではだめで、やっぱり使ってもらわないといかん、体験してもらわないといかんということで出前講座を実施したりと。それから先ほど申し上げたような、市民だけではなくて、企業がどうしているのか、町内会の環境に対する取り組みというのをアンケートを実施しました。また2016年度は、自然災害、3.11が過ぎてもそういったものが、氾濫がしてきたということで、市民の防災意識が高まってきたこともあって、防災グッズの講座がいろいろなところで要請されることが多くなって重点的に活動しました。

防災エコグッズにつきましては、ライフラインが切れたとき、生活維持の仕方の観点が、どうしても元過ぎると忘れがちということから、その活用レベルが非常に順調にたくさん有効なものがあるんですが、低いとか、日頃から我々が進めるエコライフに通じるものもあるということで、こういったものを、やっぱりメンバーにエコグッズや冊子づくりに関心が、イラストなどが漫画チックに描けるとか、お手元の資料は

写真だけ除けば全部自分たちでつくったものを入れ込んであります。

これは防災エコグッズで当初1, 100部印刷していました。中原区の町内会に配布し、出前講座の実施ごとに参加者に配付しています。

去年の9月にはロージーちゃん防災エコグッズでニッポン放送に取り上げていただきまして、防災の特集番組の中に取材を受けて、中原区さんの応援も含めてこういったものができたということですね。そういう勢いもあって、なかなか予算には厳しい中原区なんですけれども、増刷を500もしていただいて。

それから、講座の内容ですけれども、大体2時間コースでとるんですけれども、実際には体験することが主体なんで、ここに防災グッズの簡易の防寒具とか、簡易サンダル靴とか、それから簡易トレイですね、それからクッション材とか、あとマンションなんかペットを飼っておられる方があって、猫なんか非常にひっかくとか、こういったものを袋をつくっておけばいいよと、こういったものを講座として実際には1時間ぐらいでやります。

出前講座はどんな実績があるかということで、簡易トイレでやった例とか、それから一つは我々も面食らったところがあるんですが、中途失聴難聴者の方、我々エネルギーのことを考えてやっているんですが、こういう方もやっぱり関心を持っている、非常に防災意識は同じなんです。そういった意味ではやっぱりこういったものをどういうふうなデモンストレーションを伝えていくかというようなことも今度学びました。

この下のほうでは、こういう参加された方、どんなもんだいと、こういう達成感も味わっておられますし、防災訓練では、非常にこういう子たちも参加していただけると。

また、中原区ではなくて、やっぱりこういった話は次にも伝わりまして、これはママさんの皆さんなんですけども、非常に盛況にこういったものの講座を受けていただきました。それから、これは情報発信として毎年こういった防災グッズをもちだして展示、体験してもらっています。今まで編集前、編集後、再度の編集後もあります。いろいろ延べいろいろな団体のところで広がりまして、約700人ぐらい見ていただいていることになります。

それから、今まではどちらかというと高齢者向けというのがどうしても多かったんですけど、出前講座というのは子供さんにもやるんじゃないか。いろいろ家庭でこういった子供たちが自分で参加してくれるし、防災訓練でも簡易トイレ、簡易トイレというと、最近の子供たちは水洗便所しか使わないところがありますが、非常時のときどうするんだというような形で体験してもらおう。それから、そういった意味で我々はもう少し子供たちや親、おじいさんおばあさんとともに楽しめる場を設けたいなど。小学生にも手軽にできるんですね。これ見ていただければわかるんですけど、それから身近な材料、レジ袋を使って活用しているんで、エコ意識の高揚、子供たちもこの場を通じて防災意識にもつながるんじゃないか。そういうことでこういった寺子屋フォーラムなんかでも先日していただきまして、出展して、いいんじゃないのというようなお話を聞きました。

最後ですが、私ども2017年はエコ防災グッズだけでなく、区内の小学生に気候変動、待ったなしだという状態なんで、いろいろ我々省エネとかグリーンコンシューマーとかいろいろ持ってますが、昔と今の生活とか、新聞から学ぶ温暖化と、こういったものを駆使して、今、地球温暖化活動推進員のメンバーがこういった手づくりの講座を今検討してもらっているんですが、それを我々も使って地域にこういったことを持っていきたい。それから、17年前にやった環境デーなかはらをぜひ実現してみたい。それから区内における気候変動・地球温暖化普及啓発活動としては、区役所、たくさんの人が出入りされる場所に我々いろいろ地球の平均気温のシミュレーションとか、いろいろな展示物をつくるんですが、やっぱりそういう場を利用していろいろな人にアピールしたい場を提供していただきたいとか、それから小学生だったら気候変動の話をするんですが、やっぱり親に聞いてもらわないと、待ったなしですから、親にも聞いてもらわないといかんということで、親子向けの地球温暖化の講座をこれから展開してみたいと思っております。

以上です。

司会：ありがとうございました。では市長からお願いします。

市長：どうもありがとうございました。地球温暖化の話ってとても大事なんだけど、すごく伝えづらいというか、非常にいろんなところに多岐にわたっているの、どうやってうまく伝えていくかというのがすごく難しいし、ただそれをしっかり伝えていかなきゃいけないということで、これからもぜひ活動を期待させていただきたいなというふうに思っています。

それともう一つは、防災エコグッズのこのロージーちゃんの防災エコグッズのところは何度も見えますけど、これ非常によくできているというか、防災グッズを買いましょうというふうな、そろえましょうと言っているんですが、大体防災グッズすごい高いんですね。高いので、まず自分たちでこういうことができるんだ、なるほど家であるものでできるんだねということの普及啓発させていくことって物すごい大事だなというふうに思いますので、ぜひさまざまな機会を通じて、子供たちも大事なんですけど、親たちです。親たちに、こうやれば簡易トイレができるんですよと、行政が全部用意するんじゃなくて、自分たちでこんなのできるんですよというふうなことを広めていっていただける活動にぜひこれからも、今年も力を入れていただけるということなんで、ぜひいろんな機会を通じて頑張っていたいただきたいなというふうに思っています。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。それでは各団体からの発表は以上となります。ここで市長から課題提起を行わせていただきます。市長よろしく願いいたします。

市長：私からは、今、多様な主体との連携の話をしたんですが、川崎にはやっぱり幾つもの成功モデルがあるというふうに思って、環境問題です。幾つかわかっている方にはわかっているんですけども、改めて復習したいと思います。環境問題といっても、今御説明いただいたように地球温暖化の問題、河川のこととか、森林とか大気の話とかたくさんあるんですけども、ちょっとここで廃棄物の話をさせていただきたいと思います。

川崎は減量をしていこうということで取り組んできました。平成17年のところ、ごみ焼却量46万トンだったのが、平成27年度では37万トンになりました。大体9万トンまで下がってきたというふうなのは、これはさまざまな市民の皆さんの御協力による賜物だというふうに思います。皆さんが意識をさせていただいて分別していただく。捨てればごみ、混ぜるとごみ、しかし分別すると資源だということで、取り組んできて御協力いただいた結果、焼却炉の四处理体制から三処理体制にできて、ごみの減量もできてということで、こんなに減らすことができました。

資源化率も10年前21%程度だったのが今や29.5%ですから、約3割のところまでは再資源化ができてきているということで、こういったのは、市のリサイクルの推進なんだということだけではなくて、事業者の皆さんは、例えば最近ペットボトルでも薄いペットボトルを使った包装とかやっていたり、いろんな簡易包装とか、事業系ごみを減らすんだという取り組みをしていただいて、あるいは市民の皆さんも、使いきり食べきりみたいな形とか、リサイクルの分別の取り組みをしていただいていることによって、こうやって資源化につながっていく、本当に減らすことができているというふうに思います。

おかげさまで先ほど申し上げましたように、今まで四つの焼却場を回していたのを三つに減らしているんですね。そして一個は休止して、実際には三つを動かしているということで、40年間で720億円費用を削減できると。減らすとこれだけメリットがあるんですよ。こういったことが結局は市民のところに還元できるということだと思います。

これには、廃棄物減量指導員の皆さん、町内会、自治会などから推薦いただいて市が委嘱させていただい

ておりますけども、中原区で344名の皆さんがこの活動をやっているということですね。全市的には1,856名の方に御協力いただいている。こういうことをすることによって、ごみの出し方、曜日が守られてない人がいるのをしっかり指導していただくとか、不法投棄があるものを今ではきれいになりましたというふうなのは、こういった地域の細かい市民の皆さんとのパイプ役を努めていただいている、まさに環境のリーダーになる方が、地域の中で日々活動していただいているおかげでこういう成果が出ているんだというふうに思います。

もう一つ簡潔に。川崎市のこれ東芝さんによるコラボレーションですね。今、川崎市役所の本庁舎をリフォームしている最中でございますけども、第三庁舎というところで、昨年ピークカットの実証実験をやりました。これいつも非常に高いレベルにある10時台とか16時台というところをピークカットをしようということで取り組みました。この時間帯で約1時間手動で調整しましょうということで、あまり無理をしてはいけないということで、大体室温を1.5度程度下げるということを手動できるということをするによって、ピークカットできて、全体として最大で12%の電力消費量を削減できましたという取り組みを行いました。ここでやっぱりやればできるよねというところを改めて市役所自身でも体感したところです。

ちょっとした意識の違いでこれだけできるようになったということは、まだ伸びしろがあるなということを僕たちは改めて感じることができました。3.11以降もそうなんですけれども、やや省エネ、畜エネというところに非常に関心が高まってこれはいいことだと思うんですが、省エネの部分というふうなのがやや取り組みで大丈夫なのかというふうな部分もあって、まだまだ日本は省エネが進んでいるといっても、まだ伸びしろがあるのではないかと、実は私どもの市役所でもこんなに伸びしろがあったということなので、こういう意識を各事業場が取り組むことによって、さらにこういった効果的な電力使用につなげていくことができるんじゃないかなというふうに思っています。

今後みんなでやればできる環境対策は、環境教育の取り組みを親や子世代へとつなげていくことのアイデアというものを、ぜひこれからの短い時間ではありますけれども、議論していきたいなというふうに思っております。

どうもありがとうございました。

司会：ありがとうございました。ここからは市長を進行役といたしまして、参加者の皆様と意見交換を行ってまいりたいと思います。市長、よろしく願いいたします。

市長：ありがとうございました。今聞いていただいたのはごみの取り組みです。でも、これ行政だけではなくて市民の皆さん、事業者の皆さん、みんなに協力していただくことによって、こうやった成果が出たという、ある意味での本当に成功体験だと思うんです。こういったものを今いろんな発表していただきましたけれども、さらにこの団体はこんな取り組みをしているのか。そしたらこういうことでつながれるなということをお互いの取り組みをよく知って、つながることによってさらに波及させる効果をもっともっとできるんじゃないかという可能性を先ほどの皆様の御発表で見た気がいたします。

どこから始めようかちょっと迷いますけれども、先ほどのグリーンコンシューマーの皆さんに、先ほどのちょっと補足をさせていただきたいんですが、子供たちの影響力というのは、皆さん発表の中で出てきたと思うんですけども、小学生、中学生とかと話す、はっきり言って親よりも環境の意識って高いです。それは恐らく皆さんのやっただけの取り組みが功を奏しているんだと思います。その子供をうまく何というんですかね、巻き込んで大人たちも参加させているというか、そういううまく仕組みができたというふうに常々思うんですが、グリーンコンシューマーの皆さんから少しコメントをいただければと思うんですけども。

鷹取さん：グリーンコンシューマーを代表しています鷹取です。

市長：どうぞお座りになって。

鷹取さん：グリーンコンシューマーは、本当に日々の生活の中でどういうふうに工夫すれば地球温暖化防止、環境に優しい生活ができるかと、本当に日々の生活に密着したことをやっています。それで年間大体グリーンコンシューマーとしては十数校の小学校に出前授業をやっていますけれども、そこで子供たちに話すと、本当に子供たちは熱心に聞いて、最後に必ずこれは家庭で御両親や兄弟に話して一つでもいいからやってくださいねと言うと、皆さんいい顔して「はい」と言ってくくださる。それがグリーンコンシューマーの一つの出前授業の私たちの楽しみでもあるということをやっています。

簡単ですけど。

牧野さん：元住吉のブレーメン通りに関してですけど、一つは理事長と一緒に学校に行って、やはりエコ調査隊として小学生を出してほしいと、こういうことで毎年行っているんですよ。その学校もどんどん増えているんですね。それで今やブレーメン通りの管轄外のようなところ、そこにおいて多くの商店に、毎年100店ぐらい回っているんですよ。それにはどうしても小学生が20人か30人、子供たちにお店で見てもらったことが母親に通じて、あのお店は行っちゃいけないとか、あの店は環境に対して熱心じゃないとか、それが母親に伝わり、それで母親から横に伝わる。

そういう仕組みが、長年やって生きてきたかなと。

市長：改めて伊藤理事長にお伺いしたいんですけど、そういった取り組みは店主さんたちの意識をどのように変えていると思われませんか。

伊藤さん：先ほどの御説明の中でもお話ししましたがけれども、要するに世界で一番環境基準の厳しいドイツに学んで、商店街として、あるいは商業者として地球環境をよくするには何ができるかということの投げかけを行ったところが、こうやって多くの大体100店舗以上のお店が参加していただいているということは、要するにこの商店街がドイツと一緒にテーマのもとにさまざまなイベントや何かもありますけれども、そういった環境への意識が非常に高まっているというふうに感じますね。

市長：だから本当にこういうグッドサイクルというのでしょうか。子供たちから消費者の親たちに伝わって、店主の意識も変わってというふうな非常にいいサイクルが回っているなというふうに思うんですね。こういうことがどんどんどんどんほかの地域でも広がっていくということが必要ですよ。ぜひこれからも川崎市の商店街を引っ張るリーダー的存在であり続けていただきたいなというふうに思っています。グリーンコンシューマーの皆さんも、本当にこれからも大分エリアも広がってきているようですので、ぜひ、これは中原区だけでなく全市的な取り組みをグリーンコンシューマーさんとしてはいろいろなところでやっておられるということですか。

鷹取さん：一時あちらこちらの商店街に声をかけたんですけど、先ほど伊藤理事長がおっしゃったみたいに、事務局がないというのはちょっと弱点で、それで働きかけるというのが難しいなということが今難点として一つあります。

市長：なるほど。ありがとうございました。

逆に今いろんな取り組みを聞かせていただきましたけれども、私からも質問させていただきましたけれども、それぞれのところから相互に何か質問はございませんか。要藤さん、何かほかのところ質問があれば、いきなりですみません。

要藤さん：ありがとうございます。企業の環境活動を進めていく上で、NECさんの教育の話なんかもあったと思うんですけども、やはりニューカマー、例えば新入社員であったり、新しく川崎工場に来た従業員に川崎工場の環境活動、あるいはいろいろなルールとかというのをきちんと理解してもらうというのが非常に大事であると同時に、例えば環境監査みたいなものを受けるときに、こういうものをちゃんとやっていますかというようなことが重要になってくるのですけれども、この中原区でいうと、やっぱり非常に新しい人が増えてきているという現状が今も続いていますし、それは恐らく商店街の方なんか新しいお店ができたりとかいうことで、一部新陳代謝みたいなのところってあるんだと思うんですけども、そういう新しくここに加わった人たちをどう巻き込んでいくかみたいなことというのは、例えば商店街さんであるとか、いろんな活動をされている方はどうアプローチなさっているのかなというあたりは少し興味があったりします。

市長：どなたか今のことについて御発言は。

庄司さん：例えば矢上川、やっぱり周辺幸区、中原区、大変今、新しい住民の方が多くて、でも何もよくわかっていないということがある。知りたがっているけど情報がうまく伝わってないということもあるのかなんて思います。私たちは、先ほど日吉の輪というネットワークを組んでイベントを起こしながら新しい方が参加したらいろいろなその歴史や文化がわかるようなイベントをつくっていて、今、例えば2月5日に一月おくれのお正月というのを新川崎の操作場跡地でやるんですけど、そういったところにも、昔遊びを通じた地域の方がつながりながら、カルタをしながら昔のこの地区の大事なものを伝えていくとか、そういう楽しみながらやっていくなんていうことを増やすように心がけています。

市長：今、こういう例えば矢上川の話というふうなのを、例えば企業さんなんかでも、地域貢献したいんだけど、どうやっていいのかなというふうなのがわからない中小の企業の方たちもいらっしゃるというところと、そういう方の、例えば矢上川で遊ぶ会さんとかタグを組むことによって会社と地域団体と、そして地域がつながっていくというふうな、そういう接点というふうなのが大事だと思いますね。

何か阻害要因みたいなものってありますか。むしろもう少しここをうまくやればそういうことがもっと生まれるだろうなというようなことってありますか。何か感じることはありませんか。稲垣さんは。

稲垣さん：弊社でも、生物多様性という視点でいろいろなイベントをやったりしているんですけども、そういう地域の活動があればぜひ参加を従業員にも促したいなと思っておりますが、一方で我々そういうイベントをやる時には、何かあったときの保険が会社として包括で入っているんですね。そういう何かあったときの安心があると非常に案内がしやすいなというところがあるんですけども、我々がきちんと主催をしてそういう保険の枠の中でやるんだっいたらいいんですけども、地域でいろいろやっているところを従業員に紹介して、例えば何かあったときに問題が出たりするとどう対応すればいいのかということを考えてしまうと、なかなかそこに入り込めない心配があるかなという感じはしています。

市長：なるほど。桐原さん物すごくうなずいておられますけれども、同じような感覚がございますか。

桐原さん：やはり前にも川崎区役所のところの小学生がミツバチを飼っているというようなことも紹介され

たこともあって、ぜひどうですかという話もあったんですけども、我々の川崎工場のところでミツバチを飼って、中原駅近くなので通っている方々が刺されたらどうでしょうか。その部分を考えますと、なかなかその一步が踏み込めないというのは確かにあって、断念したというそういうところがあったりしまして、やっぱり安全は非常に我々としてはどう担保するかというのが課題ですね。

市長：なるほどですね。そこはやっぱり大きな看板がやはり難しさというのはありますか。

要藤さん：例えば、私どもの工場の前庭を開放するような、ああいうイベントも、例えば風の強い日に子供たちが遊ぶふわふわが倒れちゃってというような事故が世の中で報道されたこともありますし、あるいは工場の敷地の中に池があるんで、そこに落っこちちゃったらどうしようみたいなことで、人をいっぱい張りつけてやったりというので、こういった活動を一回始めたからには我々としてきちんと継続していかなきゃいけないというのはこれは皆様共有されていることだと思うんですけども、特に企業からすると、そういう事故が一回でもあると継続という部分が非常に難しくなってしまうなということで、我々は最大限配慮をするんですけども、その先に若干及び腰な場合が出てくるというみたいなのところですね。少しあるかもしれないですね。

市長：そういう意味では、このNECさんと富士通さんのような大きい会社だと自己完結型のほうがある意味やりやすいなという部分はあるわけですね。そういう感じですか。

稲垣さん：保険として、会社のイベントとして入っていますので、いろいろ配慮はするんですけども、もし何かあったときには保険があるという安心感があります。

市長：それはいい御指摘をいただいたというか、なるほどそういうことがあるのかなと。だけどそういう難しさと、ほかの地域の企業の皆さんと連携する難しさというのを、逆に地域の団体の皆さんが感じているところってありますか。柘植さんのところとかありますでしょうか。CCのほうで。

柘植さん：先ほどの紹介の中でも、前にも中小企業さんのほうに環境の関係のアンケートを出させていただいたことがあるんですけども、CCなかはら、なんじゃこれはみたいな、信用感というんですかね、それがやっぱりいま一つだったのかもしれないので、あまり回答率がなかなか……、25%くらい。だから、例えば中原区役所の名前も使わせていただくと、やっぱりそうするとちょっと回収率が増えて、こんなことをやっているんだというのがわかって、こちらからアプローチできて、何か一緒にできることにつながる、どっちかという信用みたいなところがありますよね。

市長：そういう意味ではいろんなお願い事をするときに、例えば中原区役所もこれに加わっていますよとか、協力していますよとかというふうなのが一つの後押しになるということもあるのかもしれないですね。

大分時間がもう来ちゃっているんですけども、何か取りとめもなくなっているんですが、しかしこの際ですから、あえてこういうふうな取り組みをしたらもっと市民の皆さん、特に親のことを巻き込めるとかというふうなアイデアとか提案みたいなものももしありましたら。

伊藤さん：今日御出席の皆さんの中で、中原区の昔の姿を知っている方というのは僕ぐらいの年齢の人間はある程度わかるけど、要するにさっきの矢上川ですね。我々の子供の頃は矢上川だけでなく小さな河川がいっぱい流れていて、そこで子魚とったり、釣ったり、あるいはザリガニとったり、トンボだったり、セミ

もとりましたけど、そういう大自然がだんだんだんだんなくなっているわけです。その中で庄司さんたちのグループの矢上川で遊ぶ会というのは、本当に昔の大自然を子供たちに教える物すごくいい教育機会だと。この自然を守るためには何をしたらいいかということ、先ほども会からありましたけれども、要するに都市河川のためですね、保水能力が既になくなってきて、一気に増水して、それで川の環境を破壊していくというようなことでもいろいろと提案がありましたけれども、もっと子供たちに大自然のよさ、我々が子供の頃ってもう夢中になって表で遊んだんですよ。今は施設の中、あるいはゲーム、そんなことで子供たちが遊んでいるんじゃないかって、やっぱり自然のよさというものをもっとPRできるような環境をつくってもらえるといいなというふうに今日は感じました。

そういうことで、実は先日テレビでもって見ていたんですけども、グレートネイチャーというテレビ番組の中で、中東のオマーンというところの、そういう砂漠みたいなところに、そこが地球の隆起によって地殻の中のかんらん岩という岩が露出しているんですね。そのかんらん岩が自然に溶けてですね、カルシウム分になって、それでCO₂と結合して石灰になっているんですね。およそ年間10万トンのCO₂が削減されている。要するに我々もCO₂をどう削減するかというようなことで活動しているわけで、どこかの大統領があれば、とんでもないのがありますけれども、それをこういったかんらん岩がこれからの地球を救っていくんじゃないかというようなことなんで、ちょっとテレビを見ていて、ああ、こういうものがあつたんだなということで、ちょっと情報の提供でございます。とりあえず矢上川みたいなああいった川をもっともっとみんなに知ってもらえたらいいかなというふうに思っています。

市長：ありがとうございました。この前のパリ協定が締結されて、今後、新しい大統領の話でこれもやや危なくなってきましたけれども、しかし、この低炭素、これからの脱炭素のような、そういう世界観というのはもう戻ることがない、そっちに向かってみんなが行くんだという、これは不可逆的な方向性だと思うんですね。それをどうグローバルな 이슈をローカルに落とし込んでいくかということなんで、そのいろんな入り方があると思うんです。子供からだったり親からだったり、子供を通じて親だったりとか、それはエコバッグであったり、あるいは川であったりとかという、そんないろんな取り組みがあると思うんですけども、一つの団体でできないことというふうなのをかけ合わせることによって力にしていくという取り組みをこれからもぜひ中原区、今日は中原区ですけども、中原区でいろんな団体が活動されていますので、そこかけ合わせていくという取り組みをぜひみんなでもた頑張っていきたいというふうに思いますので、今までやっていただいた皆さんにも、これからもぜひよろしくお願ひしたいなというふうに思っております。

今日は貴重な発表をしていただいてありがとうございました。これをまた市全体に広げていけるように頑張っていきたいと思ひます。本当にありがとうございました。

司会：ありがとうございました。それでは最後に市長から本日のまとめをお願いいたします。

市長：今まとめました。

司会：では、ありがとうございました。

以上をもちまして第28回区民車座集会を終了とさせていただきます。本日は御来場いただきまして誠にありがとうございました。